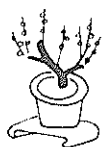


2 月
(如月)



暖冬の冬も、ようやく寒さも本格化。アメリカやヨーロッパでは大寒波がおそっています。

細長い島国日本でも、裏日本は大雪とか。待ちわびたスキーヤーは大喜び、反面、農作物の被害や交通事故など雪害も深刻です。人間は自然の気まぐれさに迷惑します。

受験生を持つ家庭では、一喜一憂の月。関西から関東へと入試前線は移動します。入試は長い人生の大きな岐路であっても、それがこれからの人生の全てを決めるものではありません。挫折もひとつの糧になります。受験生のみなさん、せせこましくならずBIGな人間になってください。

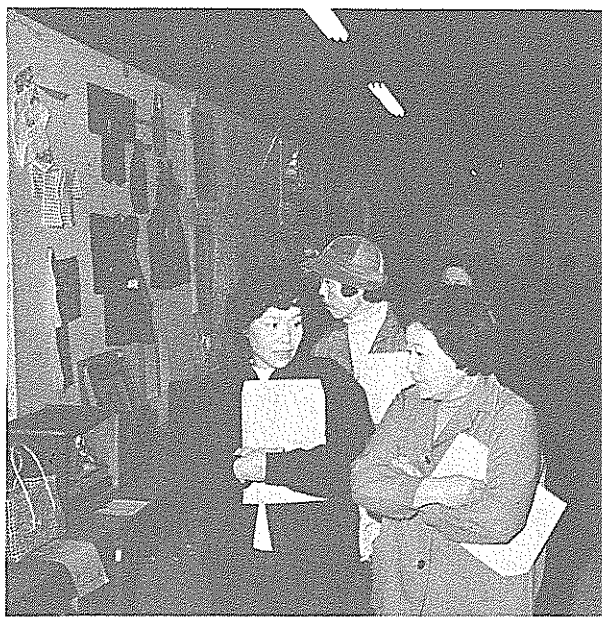
11日は「建国記念の日」。戦前は紀元節といって盛大な式典が行なわれたとか。そもそも、神武天皇が即位した日を日本の始まりとしたところから来ています。現在もある団体が式典を催し、某議員が出席したとかで、新聞・テレビで論議を呼ぶことがあります。しかし、子どもたちには唯の祝日に過ぎません。思想で固まった頭ではなく、もっと素朴な気持ちで、祖国を愛することを考えたいものです。

14日は「バレンタインデー」。誰が決めたか、女の子が慕う男の子にチョコレートを上げて気持ちを伝える日とか。大人が聞いたら「あやかしいこと」と思いますが、子どもにとっては、建国記念の日よりは胸躍る日のようです。「右」だ「左」だと言って、建国記念の日の意義を子どもに説くより、もっと大らかにのびのびと子どもは成長してほしいものです。寒い短い冬。精神と体に力を充電して、くる春を迎えましょう。

日章

できた!! 婦人の心の広場

感動の第一回作品展



いろいろな工夫をこらした作品が...

「仕事の片手間に作ったり、使ったりした、土くさい道具の作品展をしてみたい」……こんな農家の主婦のつぶやきが、地区の婦人（農協婦人部生活改善グループ、たばこ生産婦人部）の間に大きく輪を広げ、一年近い検討のすえ、この日の「くらしを考える作品展」の開催にこぎつきました。

一月八日、タバコ乾燥場（南州市農協日章支所北側）へ三百点もの出品があり、十二時の開場と同時に大盛況。市価の半値の野菜十種類はすぐ予約済。農作業の工夫から生まれた器具やくらしの工夫から生まれた新聞紙の燃料、家庭着のリフォーム、自家製の贈り物など、自慢料理の数かず、古い

道具から趣味の絵画や生け花、盆栽などまでが展示され、自作を前にしての苦勞話や感嘆の聲がそここで聞かれました。

ある世話役さんは「なぐれまし。こまの苦勞が大変でしたが、みんなの喜ぶ顔を見て疲れもふつとびました。しんじが、普及所、市役所、農協などのお世話で、なんとか続けたい。」と今後にかける意欲を話してくれました。

展示場のそばでは「これからのくらしを考える」と題した講演も行われ、参加した婦人たちは、くらしの実態と見直しに熱心に聞き入っていました。

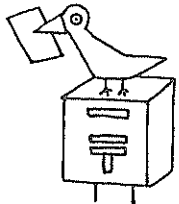
講演のあと即売会、試食会があった。自慢料理に舌つづみをうち大成功のうちに終りましたが、①どう実際の生活に役立たせるか。②地区ぐるみの規模の「作品展」をどう継続させていくか。……などの課題も残っています。



親を多々 124

年賀配達苦勞さん

元旦の朝八時、南国郵便局から配達の出初め式に、何か一言励ましの言葉をいただきたいとお声がかかった。



局員、アルバイト学生合わせて四十二名が、数日前から夜遅くまでまとめた年賀状が約四十五万通であった。一刻も早く届けるため限られた短時間ではあったが、少しでも彼らの心に残ることを願って次のような話をした。

今年はイヌ年です。犬も歩けば棒にあたる。という言葉があります。これは、余り出しゃばりすぎると禍に会うというたとえで、また反対に、出歩けば意外な幸せに会うこともあるという意味もあります。しかし最近ではどちらともなく、黙って座っているのは、何も変化は生まれません。動けば良いにしろ、悪いにしろ、何か変化に会うという積極性の意味に使われることが多いようです。大いに活躍されるよう願います。

もともと、黙って座っているのは、何も変化は生まれません。動けば良いにしろ、悪いにしろ、何か変化に会うという積極性の意味に使われることが多いようです。大いに活躍されるよう願います。

昨年の六月にこんなニュースがありました。それはカナダの一青年と切手のお話です。彼はガンのために、右下腿を奪われながらガンとの闘いに敢然と立ち向かい、義足でカナダの横断マラソンに挑んだ二十二歳になる

テリー君です。切手の手術後、七十九年の初め化学療法が終わると、カナダのガン協会の支援を受けて、ガン研究基金を呼びかけ、四月、東海岸より西に向って出発しました。全長一三、五〇〇キロの距離を、ピッコをひきひき朝の四時から走り続けました。しかし百四十日余りを経過した九月一日に、三分の一になる五、三〇〇キロのところ

でガンが再発し、さらに肺に転移し入院せざるを得ない状態となったのです。しかし、その間集まった募金額は五十五億円に達したといわれます。昨年六月二十八日、国民の祈りも空しく、ついに帰らぬ人となりました。死んで行くとき、彼の残した言葉は、「ぼくがガンで死んだら、代わりに何かいいことがあるさ」と言って最後ま

で弱音を吐かなかったそうです。カナダの国では、著名人を記念する切手には、その生存中、または死後十年を過ぎないと、切手にはのらないという慣行があります。しかし敗れて、その伝統を破り、彼を国民的英雄として、切手に残し悔んだのであります。

広報委員長 山本尚一



財政難

南国歌壇

得しものも失くせしものも多かりき 記憶の中の如月の雨

大埔 山本糸喜
蕎麦咲けど蜜蜂群れず幼な目に
蜂針抜く亡母の温手を恋し

下野田 徳久まきみ
白き髪あ老いたりと手鏡の
うつし後はまだ白き髪

立田 北村幸江

健康のためとふと余暇惜しみ
卓球台に白き玉追う

西島 門田美枝子
墓山の時雨にぬる野苺の
牙えし朱実に感ひ消えゆく

岡豊町 池添利江
南の土佐の山脈さわやかに
明けゆく初春を健やかに係は

植野 中司愛子

南国柳壇

猫が居て旅にも出れぬ一人者
軒雀暖め合つて春を待つ

三昌 井沢正子
お年玉くらむ財布に笑福孫
車椅子見る目で遠う幸不幸

立田 清岡照子
市 武市日出志
植田 吉本其梅

南国俳壇

短日や母の使いし鯉尺
ふわと来て蝶踏る千浦園

島崎光一
これよりは舗装途切れて落葉径
掘く先へ先へと軽き落葉舞ふ

竹内隆造
鳴き合ふて枯野を渡る鳥の群れ
ドンコウで行く寄寺初詣

西村ひとし

瀧田由紀男
島崎光一
吉田常光
竹内隆造
林 広裕
高橋 蛙
西村植子
西村ひとし
西村ひとし

西村ひとし

西村ひとし

西村ひとし

訂正

12月1日号の和泉えい子さんの俳句で「金山は女体は…」とあるのを「金山は女体を…」と訂正します。